

平成21年11月10日

各 位

会 社 名 株式会社フジックス
 代 表 者 代表取締役社長 藤 井 一 郎
 本社所在地 京都市北区平野宮本町5番地
 コード番号 3600
 上場取引所 大証第2部
 問 合 せ 先 取締役管理部長 山 本 和 良
 (電話番号) 075-463-8111

**平成22年3月期 第2四半期累計期間の業績予想の差異
 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ**

平成21年5月13日に公表いたしました平成22年3月期(平成21年4月1日から平成22年3月31日)の第2四半期連結累計期間の業績予想における予想値と比較して、本日公表の決算において下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。また、通期業績予想も修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

(単位;百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間 連結業績予想数値との差異(平成21年4月1日~平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	2,550	△45	△40	△70	△10円23銭
今回発表予想(B)	2,123	△152	△173	△191	△27円75銭
増減額(B)-(A)	△427	△106	△133	△120	
増減率(%)	△16.7	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	2,589	37	77	3	41銭

平成22年3月期通期 連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日~平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	5,176	△51	△25	△101	△14円71銭
今回発表予想(B)	4,640	△329	△312	△360	△52円35銭
増減額(B)-(A)	△535	△278	△287	△259	
増減率(%)	△10.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	4,990	△86	△132	△272	△37円26銭

平成22年3月期第2四半期累計期間 個別業績予想数値との差異(平成21年4月1日~平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	2,175	△104	△96	△99	△14円38銭
今回発表予想(B)	1,790	△189	△199	△201	△29円20銭
増減額(B)-(A)	△385	△85	△103	△102	
増減率(%)	△17.7	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	2,207	△26	3	△22	△3円05銭

平成22年3月期通期 個別業績予想数値の修正（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	4,340	△201	△101	△107	△15円60銭
今回発表予想（B）	3,544	△394	△324	△329	△47円83銭
増減額（B）－（A）	△796	△192	△223	△222	
増減率（%）	△18.3	—	—	—	
（ご参考）前期実績 （平成21年3月期）	4,147	△241	△247	△339	△46円47銭

差異の理由

第2四半期累計期間

【個別】

当第2四半期累計期間における縫い糸市場は、消費マインド低迷の影響を受け、引き続き手作り手芸分野も低調であったほか、日本向け衣料品は、一部を除いては、依然生産調整が顕著な上に、消費者の志向を睨んだ衣料品の低価格化傾向が一段と強まるなど、縫製業や縫製副資材関連業は、極めて厳しい事業環境が続いております。

このような状況のなか、当社グループは、引き続き中期の経営課題に沿って、競争力の強化やホビー分野における需要の掘り起こしなどに努めておりますが、縫い糸の受注状況は、かつてない厳しい状況が続きました。

これらの結果、当第2四半期累計期間における売上高は、期初の予想を大きく下回る見込みとなりました。利益面につきましては、大幅な売上高の落ち込みや、それに伴う操業度の低下などにより売上総利益の大幅な減益となり、これを抑えるため販売促進費を始めとする販売費、人件費及びその他一般管理費の経費節減に努めましたが、期初の予想よりも営業損失が拡大する見込みとなりました。また、これらの営業損失拡大要因に加えて、有価証券評価損の戻入益計上などによる増益要因があったものの、受取利息及び受取配当金の減少、貸倒引当金繰入額の計上などによる減益要因が増益要因を上回ることとなったため、経常損失及び四半期純損失は期初の予想よりも損失額が拡大する見込みとなりました。

【連結】

当第2四半期連結累計期間における売上高は、個別と同様に期初の予想を大きく下回る見込みとなりました。利益面につきましても個別の第2四半期累計期間で記載した損失拡大要因に加え、連結売上高の減少が個別売上高の減少を上回り、個別以上に売上総利益が減少したため、営業損失及び経常損失は期初の予想よりも損失額が拡大する見込みとなりました。一方、連結子会社の減益に伴う課税所得の減少に伴い法人税等が当初見込みよりも減少することとなり、四半期純損失は経常損失の落ち込みよりも改善する見込みとなりました。

修正の理由

通期

【個別】

第3四半期以降につきましても、景気は引き続き先行き不透明な状況が続くものと思われ、特に日本向け衣料品の消費と生産の現状から、縫製業や縫製副資材関連業は、当面厳しい状況が続くと思われ、当社グループにおける工業系部門の事業環境回復も短期的には期待できません。

これらの結果、通期における売上高は、当第2四半期累計期間と同様の状況で推移すると予想され、期初の予想を下回る見込みであります。利益面につきましても、売上高の落ち込みや、それに伴う操業度低下などによる減益要因は続くものと思われ、引き続き販売費及び一般管理費の節減に努めてまいります。営業損失、経常損失、当期純損失ともに期初の予想よりも、損失額が拡大する見込みであります。

【連結】

当社グループは、中長期的な事業環境を踏まえ、「国内販売シェアの拡大」を目的の一つとして、新たに設立した連結子会社 株式会社F T C（資本金100百万円、出資比率100%）が、当社の平成21年8月24日開催の取締役会決議に基づき平成21年10月1日をもって東洋紡ミシン糸株式会社より縫い糸（ミシン糸）事業

を譲受けております。さらに平成21年10月10日には、秋田県に本店を置く系卸商 株式会社シオンの発行済株式の100%を取得し、子会社といたしました。

今後はこれら2社とも連携を強化し、製造・販売両面においてシナジー効果を発揮させながら、国内での販売シェアを高め、グループとしての収益の回復を目指してまいります。しかしながら、これら2社は、1月決算会社であるため、当連結会計年度においては、約4ヶ月業績の連結となることから、業績の下振れをカバーするまでには至らない見込みであります。また中国の連結子会社におきましても多少の改善が見込まれるものの、当第2四半期連結累計期間とほぼ同様の状況で推移すると予想されます。これらの結果、通期における売上高及び利益につきましても、個別と同様に期初の予想を下回る見込みであります。

(注) 業績予測につきましては本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる場合があります。

以 上